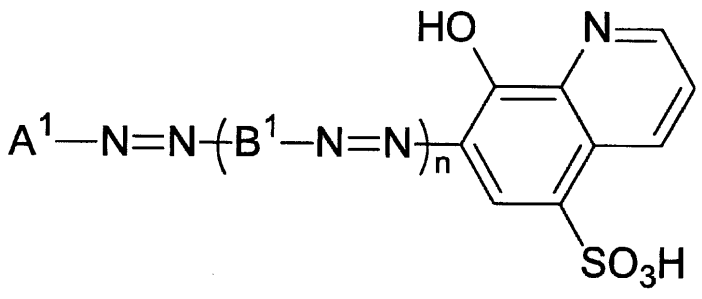
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成21年1月8日(2009.1.8)

【公開番号】特開2007-145995(P2007-145995A)
【公開日】平成19年6月14日(2007.6.14)
【年通号数】公開・登録公報2007-022
【出願番号】特願2005-342506(P2005-342506)
【国際特許分類】
Ｃ０９Ｂ　31/157　(2006.01)
Ｃ０７Ｄ 215/38　(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　 5/30　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０９Ｂ　31/157　ＣＳＰ
Ｃ０９Ｂ　31/157　ＣＬＡ
Ｃ０７Ｄ 215/38
Ｇ０２Ｂ　 5/30

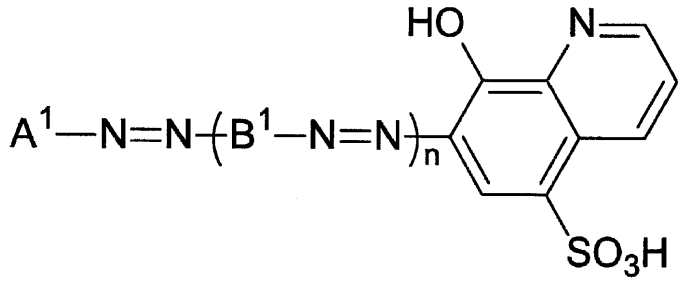
【手続補正書】
【提出日】平成20年11月17日(2008.11.17)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
濃度１０ｐｐｍの水溶液の状態で測定した吸収スペクトルの主ピークの半値幅に比して、濃度１０００ｐｐｍの水溶液の状態で測定した吸収スペクトルの主ピークの半値幅の方が小さくなることを特徴とする、水溶性色素。
【請求項２】
分子中に少なくともアゾ基を有することを特徴とする、請求項１記載の水溶性色素。
【請求項３】
遊離酸の構造が下記一般式（Ｉ）で表わされることを特徴とする、請求項２記載の水溶性色素。
【化１】



（Ｉ）

（上記式（Ｉ）中、
A^1は、任意の置換基で置換されていてもよい１価の芳香環残基を表わし、
B^1は、任意の置換基で置換されていてもよい２価の芳香環残基を表わし、
ｎは、０～３の整数を表わし、
B^1が複数存在する場合、それらは互いに同一でも、異なっていてもよい。）

【請求項４】
遊離酸の構造が下記一般式（Ｉ）で表わされることを特徴とする、異方性色素膜用水溶性色素。
【化２】



（Ｉ）

（上記式（Ｉ）中、
A^1は、任意の置換基で置換されていてもよい１価の芳香環残基を表わし、
B^1は、任意の置換基で置換されていてもよい２価の芳香環残基を表わし、
ｎは、０～３の整数を表わし、
B^1が複数存在する場合、それらは互いに同一でも、異なっていてもよい。）
【請求項５】
少なくとも請求項１～４の何れか一項に記載の水溶性色素を含有することを特徴とする、色素組成物。
【請求項６】
少なくとも請求項１～４の何れか一項に記載の水溶性色素を含有することを特徴とする、異方性色素膜。
【請求項７】
請求項５記載の色素組成物を用いて作製されたことを特徴とする、異方性色素膜。
【請求項８】
請求項６又は請求項７に記載の異方性色素膜を少なくとも備えてなることを特徴とする、偏光素子。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２４】
本発明の別の要旨は、遊離酸の構造が前記一般式（Ｉ）で表わされることを特徴とする、異方性色素膜用水溶性色素に存する（請求項４）。
また、本発明の別の要旨は、上述の水溶性色素を含有することを特徴とする、色素組成物に存する（請求項５）。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２５】
また、本発明の別の要旨は、上述の水溶性色素を含有することを特徴とする、異方性色素膜に存する（請求項６）。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６

【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】
　また、本発明の別の要旨は、上述の色素組成物を用いて作製されたことを特徴とする、異方性色素膜に存する（請求項７）。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
　また、本発明の別の要旨は、上述の異方性色素膜を少なくとも備えてなることを特徴とする、偏光素子に存する（請求項８）。